

研究会報告

第9回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第9回若手会夏の学校実行委員会*

1. はじめに

第9回日本気象学会夏期特別セミナーは、1997年7月18日（金）～7月20日（日）、仙台市泉区の宮城県立泉が岳青年の家において開催された。日程が週末だったこともあり社会人の方にも多く参加して頂くことができ、参加者数は115名に達した。

2. 開催内容

今回の夏の学校では、招待講演、一般講演、ポスターセッションの企画を催した。

1日目は、昼すぎからの受付の後、開校式、招待講演、懇親会が行なわれた。招待講演は「これからの地球環境を考える上での新しい視点」という趣旨のもとに、次の2名の先生に講演をお願いした。（各90分）

森山 茂（日本大学生産工学部）

「生命システム論と地球環境の創成」

青木周司（東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター）

「地球規模における二酸化炭素の循環と変動について」

森山先生は生命と環境との関わり合いについて独自の考えを展開して下さいました。青木先生は炭素循環についてどこまで分かっているかが分からないか、最新の研究方法も含めて紹介して下さいました。

2日目午前中は、2会場に分けて次の5件の一般講演が行なわれた。（各50分）

沼口 敦（東京大学）

「大陸スケールの水循環—地球を旅する水を追う」

松島 大（東北大学）

「リモートセンシングによる蒸発散量推定の可能性—地表面温度測定を中心に—」

鈴木真一（東京大学）

「台風の通過に対する海洋の応答」

井出迫義和、井上雄介、岩田総司、乙津孝之、山形斉子（日本気象協会）

「天気予報の現場に出現した新しい視点」

徐 健青（東北大学）

「裸地面の熱収支・水収支の季節変化及び気候湿潤度」

ポスターセッションは2日目午後と3日目午前の2回に分けて行われた。ある程度完成した研究はもとより、夏の学校という場を生かし、未完成の研究・計画段階の研究でも積極的に発表して下さいよう発表申込みを募り、発表件数は28件にのぼった。ポスター会場を広めにとったことが好評だったようである。

3. おわりに

今回の夏の学校では、参加者への開催通知・参加申込み受け付けなどの広報に関しては、従来の郵送ではなく、基本的に電子メールで行なった。一部の方は不便に感ぜられたかと思うが、多数の参加者に対する連絡処理の手間が減り、実行委員の負担の軽減になったことは事実である。今後の運営の参考になれば幸いである。

なお、1998年度は筑波大学の主催による開催が予定されている。

最後に、今回の夏の学校の開催にあたっては気象学会には資金補助も含め大変お世話になった。この場を借りて厚く御礼申し上げる次第である。

* 小竹知紀・石田春磨・石島健太郎・井元修司・岩瀬弘信・大寺浩史・大和田有軌・小澤淳真・木村一洋・木村玲二・黒田麻里子・斎藤篤思・佐伯田鶴・高橋雅人・西居健太郎・道広有理・村田英彦・本谷 研・山本恭子・吉村 悟（東北大学理学部宇宙地球物理学科）石田祐宣（弘前大学理工学部地球科学科）。